

横浜市インフルエンザ流行情報 16 号

横浜市医療局健康安全課／横浜市衛生研究所

<<トピックス>>

流行注意報が発令中です

【概況】

第 52 週（12 月 25 日～12 月 31 日）の定点あたりの患者報告数^{※1}は、横浜市全体で **19.50** となり、流行注意報が発令中です。

年齢別では、10 歳未満の報告が全体の 41.0%、15 歳未満の報告が全体の 62.7% を占めています。

市内の学級閉鎖等は、累計で 1,183 施設（保育所・幼稚園 23 施設、小学校 862 施設、中学校 230 施設、高等学校 51 施設、その他 17 施設）、患者数は 18,663 人です。

市内迅速診断キットの結果は、累計で **A 型 99.4%、B 型 0.6%、A・B 型ともに陽性 0.1%** と、A 型が多く検出されています。なお、全国のウイルス分離・検出状況^{※2}では A 型が多く検出されており、横浜市での検出状況も同様です。

ワクチン接種、咳エチケットや正しい手洗い^{※3、※4}等で、インフルエンザを予防しましょう。

※1 定点あたりの患者報告数とは、定期的にインフルエンザ患者発生状況を報告していただいている医療機関（市内 153 か所）から報告された患者数の平均値です。

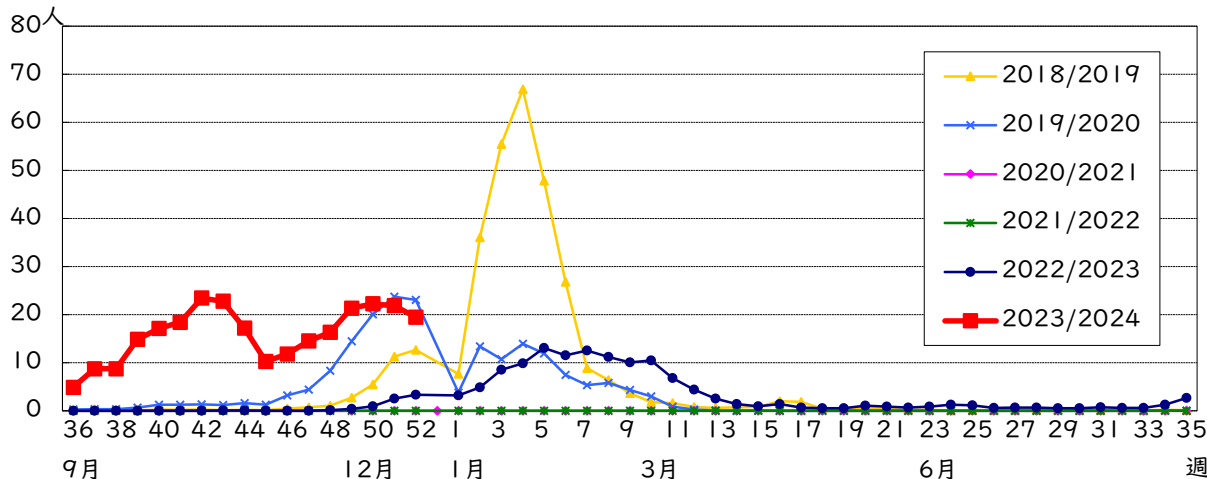
※2 [インフルエンザウイルス分離・検出速報（国立感染症研究所）](#)

※3 [横浜市保健所ホームページ](#)（「正しい手洗い方法」および、掲示用ポスター「石けんで『手』を洗おう」をトップページに掲載しておりますので、是非ご活用ください）

※4 [令和5年度インフルエンザ Q&A（厚生労働省）](#)

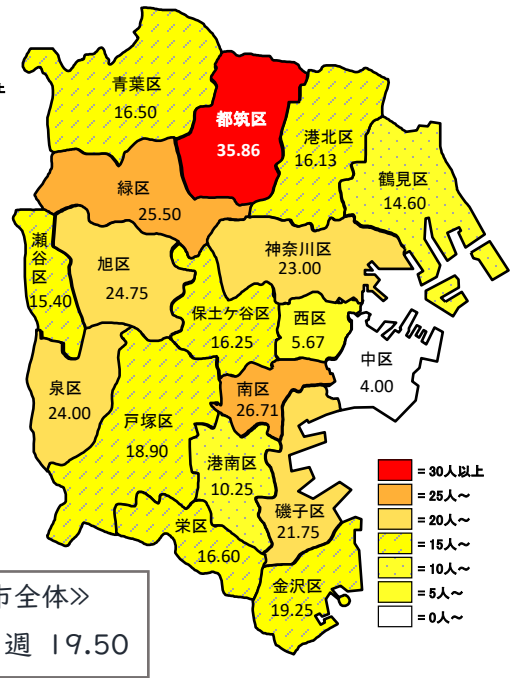
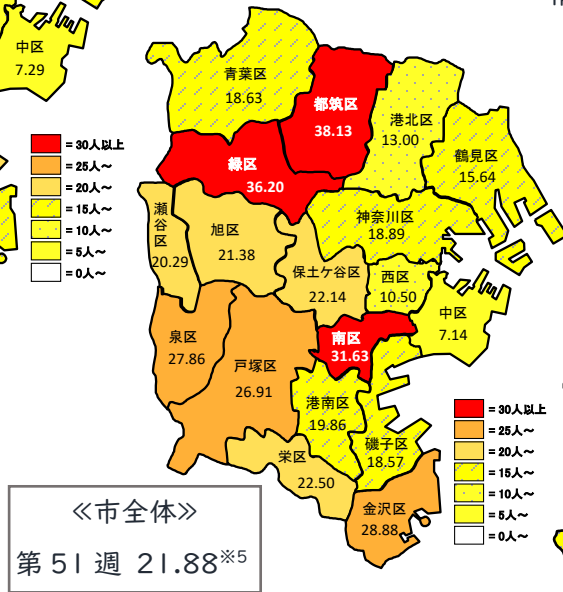
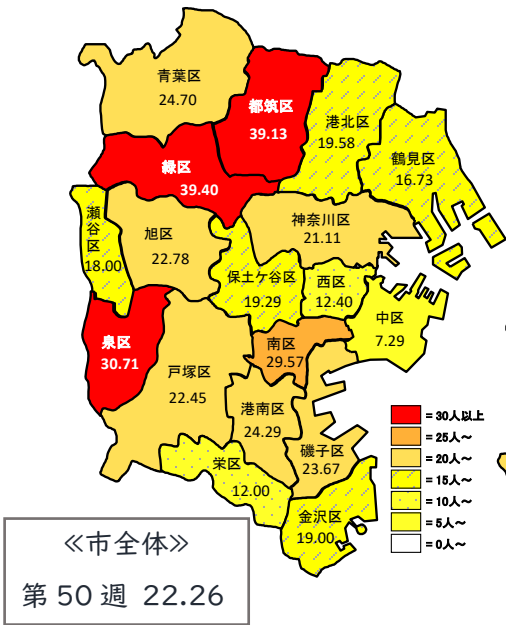
【市内流行状況】

市全体の定点あたりの患者報告数は、2023/2024 シーズン開始の第 36 週（4.91）以降増加が続き、第 39 週（14.86）に流行注意報発令基準値（定点あたり 10.00）を上回りました。第 52 週は 19.50 です。



地図で表した直近3週間の区別流行状況
(塗り分けの数字は定点あたり報告数)

※5 追加報告のために、以前お知らせした情報から報告数が更新されました。



【参考】

直近流行(2022/23シーズン)の流行推移

流行の開始【定点あたり1.00以上】

第51週(2022年12月19日~12月25日)

流行注意報発令【定点あたり10.00以上】

第5週(2023年1月30日~2月5日)

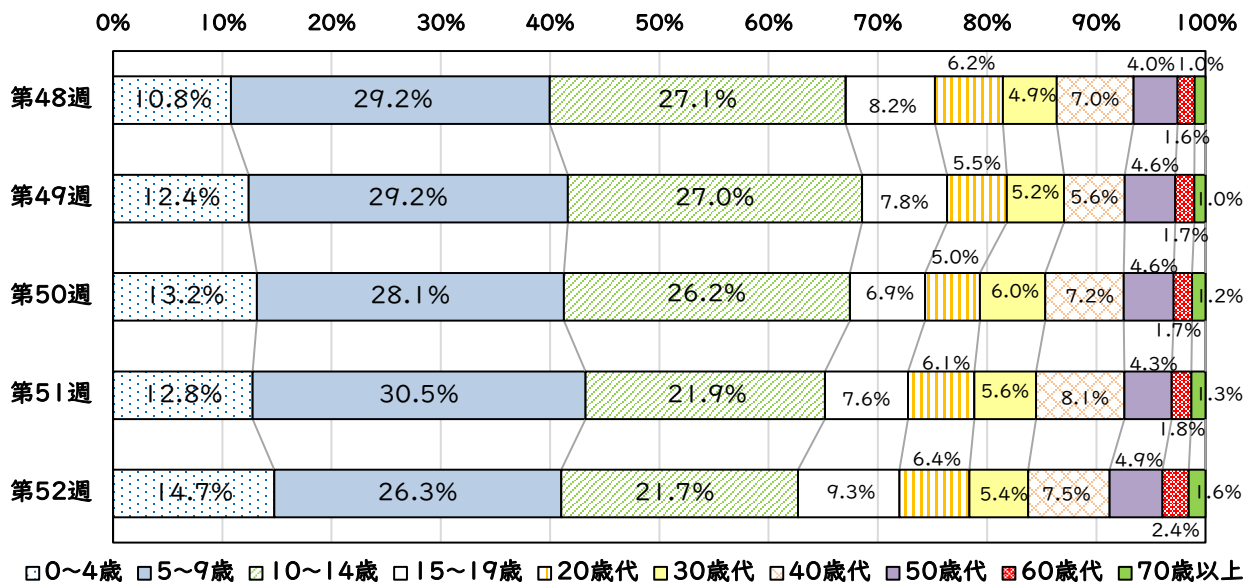
流行注意報解除【定点あたり10.00未満】

第11週(2023年3月13日~3月19日)

【年齢層別集計】

第52週の患者年齢構成は、10歳未満が41.0%、10歳から15歳未満が21.7%となっており、15歳未満が全体の62.7%を占めています。

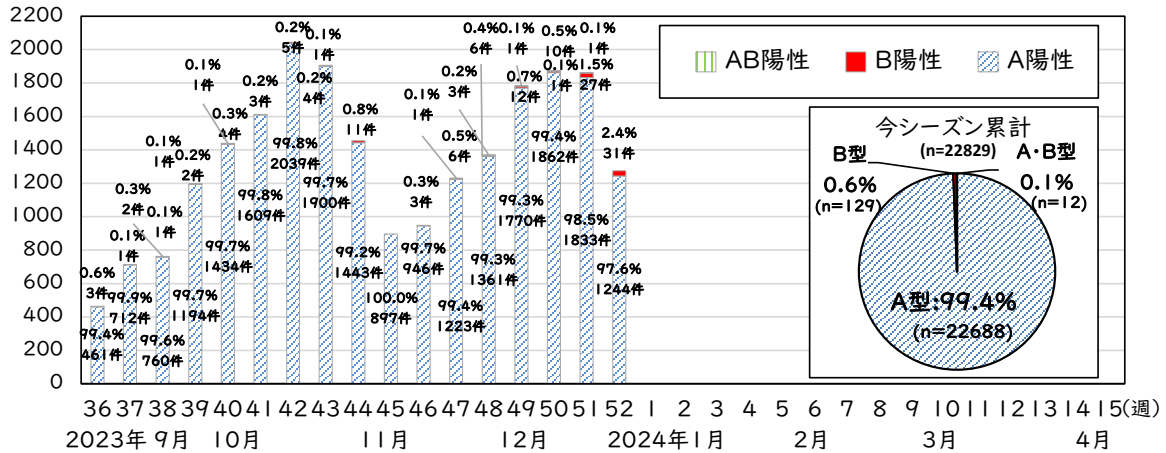
年齢層別患者割合



□0~4歳 □5~9歳 □10~14歳 □15~19歳 □20歳代 □30歳代 □40歳代 □50歳代 □60歳代 □70歳以上

【迅速キット結果】

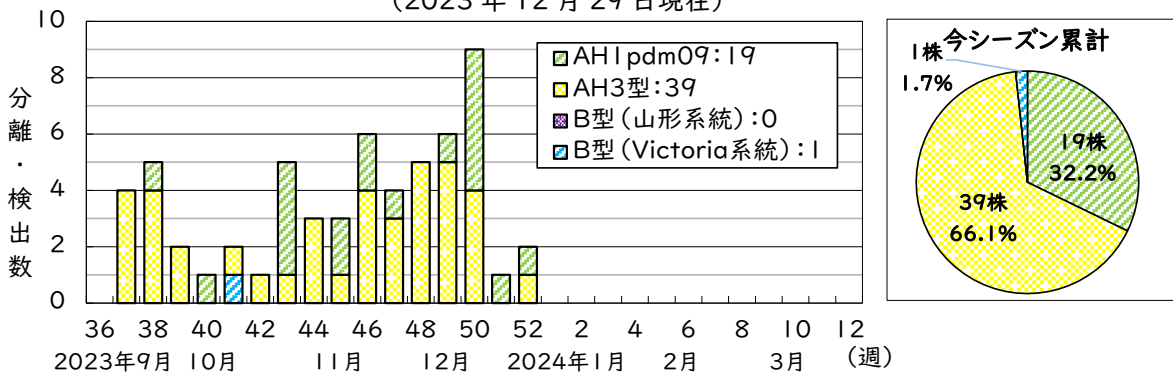
第52週の迅速キットの結果は、A型が97.6%、B型2.4%と、ほぼA型が占めています。今シーズン累計は、A型99.4%、B型0.6%、A・B型ともに陽性0.1%です。



【市内病原体検出状況】

市内の病原体定点^{※6}から、AH3型が39株、AH1pdm09が19株、B型(Victoria系統)が1株分離・検出されており、全国の分離・検出状況と同様の傾向と考えられます。

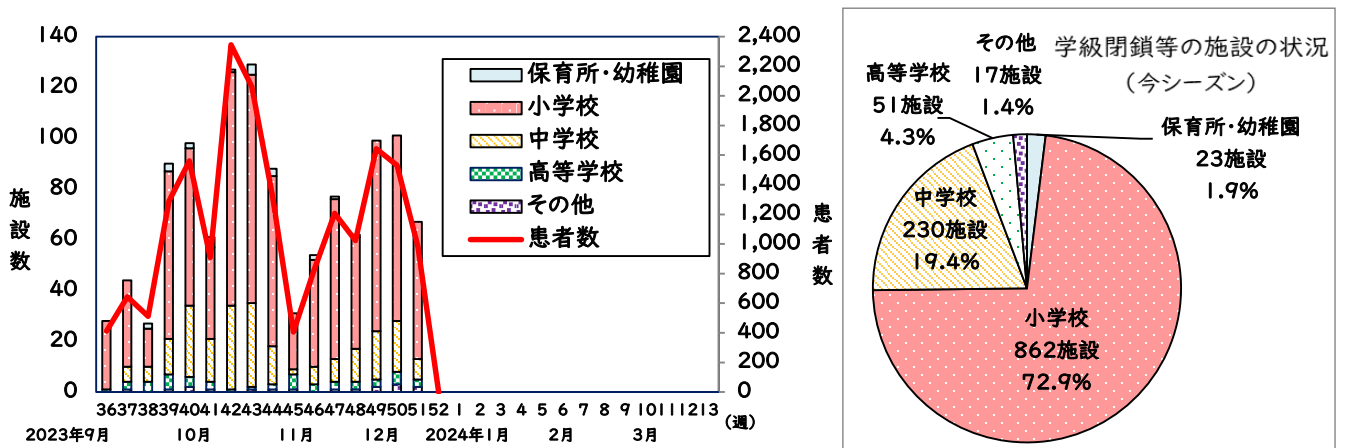
市内病原体定点からのインフルエンザウイルス分離・検出状況 (2023年12月29日現在)



※6 病原体定点:採取した検体を衛生研究所に送付する医療機関で、市内に17か所あります。うち、インフルエンザについては12か所に採取されています。

【市内学級閉鎖等状況】

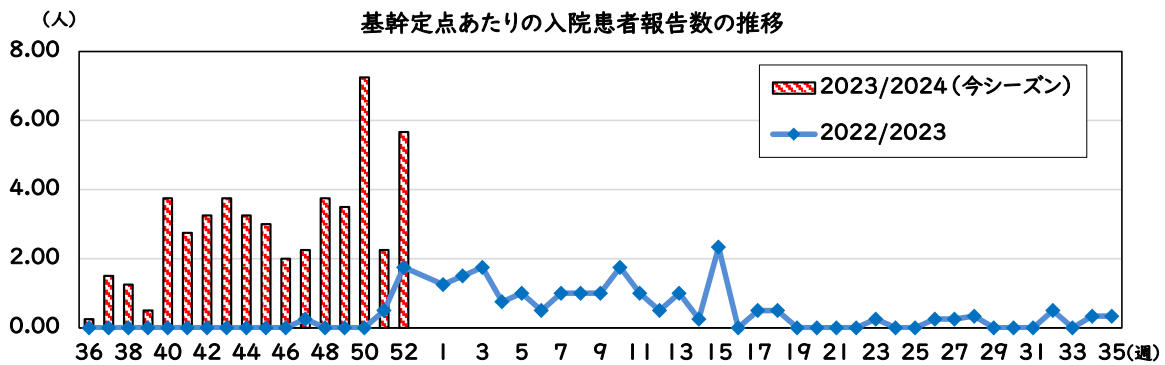
第52週は報告がありませんでした。今シーズンの累計では、第52週までに1,183施設(保育所・幼稚園23施設、小学校862施設、中学校230施設、高等学校51施設、その他17施設)から報告があり、報告された患者数は延べ18,663人です。報告された施設の割合は、保育所・幼稚園1.9%、小学校72.9%、中学校19.4%、高等学校4.3%、その他1.4%となっています。



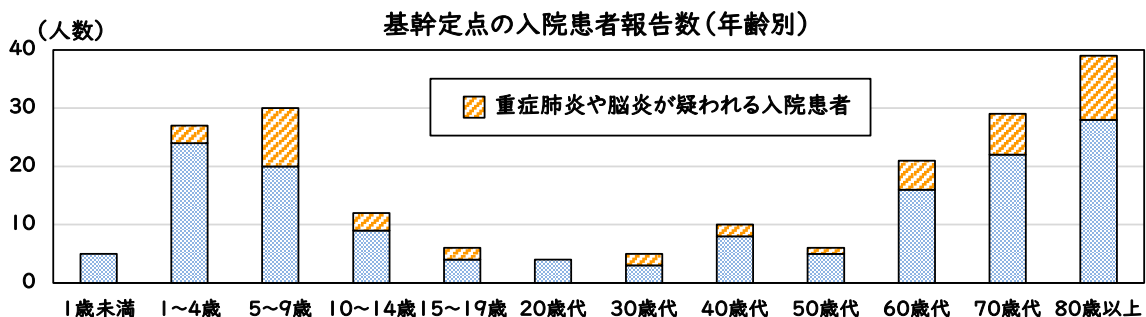
【入院サーベイランス】

市内基幹定点医療機関^{※7}におけるインフルエンザ入院患者は、第52週に17人が報告され、今シーズンは現在までに累計194人（10歳未満62人、10歳代18人、20歳代4人、30歳代5人、40歳代10人、50歳代6人、60歳代21人、70歳代29人、80歳以上39人）です。

入院時の診療内容（ICU入室、人工呼吸器の使用、頭部CT検査、頭部MRI検査等を実施）を把握している重症肺炎や脳炎が疑われる患者数は、第52週までの累計で46人（うち第52週報告数は1人）です。



※7 基幹定点: 患者を300人以上収容する病院（小児科医療と内科医療を提供しているもの）の中から、地域ごとに指定された医療機関のことで、市内には4つの基幹定点があります。



※ 小数点以下第2位を四捨五入するため、計と内訳の合計が一致しない場合や構成比の内訳の合計が100%にならない場合があります。

* 参考リンク

近隣自治体の流行状況

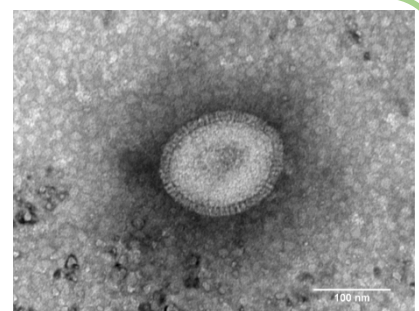
- [神奈川県](#)
- [川崎市](#)
- [東京都](#)

全国の流行状況

- [国立感染症研究所](#)

インフルエンザウイルスの
電子顕微鏡写真(6万倍)

撮影:
横浜市衛生研究所



【お問い合わせ先】 横浜市衛生研究所感染症・疫学情報課 TEL 045(370)9237
横浜市医療局健康安全課 TEL 045(671)2463